

研究・調査報告書

報告書番号	担当
9 8	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Clinical, socioeconomic, and lifestyle parameters associated with erectile dysfunction among diabetic men. 糖尿病患者の勃起障害に関連した臨床、社会経済およびライフスタイルの要因</p>	
執筆者	
Kalter-Leibovici O, Wainstein J, Ziv A, Harman-Bohem I, Murad H, Raz I; Israel Diabetes Research Group (IDRG) Investigators.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Diabetes Care. 2005;28:1739-44.	
キーワード	
勃起障害、糖尿病、ライフスタイル	
要 旨	
<p>(目的) 勃起障害は、男性の糖尿病患者において高頻度に見られる。本研究において、男性の糖尿病患者の勃起障害に関連した、臨床、社会経済およびライフスタイル要因を評価した。</p> <p>(方法) 対象者は、イスラエルの 26 の糖尿病クリニックで治療中の 18 歳以上の男性の糖尿病患者から任意に選ばれた 1,040 人であった。アンケートによって人口統計的な特性、社会経済的な特性およびライフスタイルの特性について、また、IIEF-15(勃起性の機能の国際インデックス)を用いて勃起機能についての情報が得られた。糖尿病のタイプ、罹病期間、治療およびコントロールの状況、微小血管障害および循環器疾患の合併症、薬物治療、血圧、脂質についての情報も得られた。</p> <p>(結果) 対象者の平均年齢は 57 歳、平均糖尿病罹病期間は 8 年 (範囲 1 年未満~50 年)であった。正常な勃起機能は対象者の 13.5%に見られ、高度な勃起障害は対象者の 30.1%に見られた。患者の年齢(5 年の加齢):1.38(1.29-1.48)、糖尿病罹病期間(5 年の増加):1.16(1.07-1.26)、現在の HbA1c レベル(1%の増加):1.10(1.01-1.19)、微小血管障害の合併:1.43(1.09-1.88)、循環器疾患の合併:1.78(1.27-2.48)、利尿剤の使用:1.78(1.09-2.91)は勃起障害の重症度と正の相関があった。一方、レジャーの時間と仕事に関連した身体活動状況:0.51(0.36-0.72)、少量の飲酒 0.70(0.51-0.97)は勃起障害の重症度と負の相関があった。</p> <p>(結論) 男性の糖尿病患者の勃起障害の重症度は、年齢、糖尿病罹病期間、不良な糖尿病コントロール、微小血管障害の合併、利尿剤の使用および循環器疾患の合併によって増加する。身体活動状況および飲酒は勃起障害に対して保護的であると考えられた。</p>	